

菩提寺まち協のシンボルマーク決まる

平成20年10月の「まち協だよりNo.2」でシンボルマークの募集を発表しましたが、その後はかばかしい進展は見られませんでした。しかし、今回甲西高校の生徒さんのご協力により、右のように菩提寺のイメージをしっかりと形にした素晴らしいマークが出来上がりました。

印刷の都合で、この紙面ではモノクロになっていますが、実際のマークはカラーで表現され、上の黒い部分が緑色、下のグレーの楕円の部分は赤、文字は黒となっています。

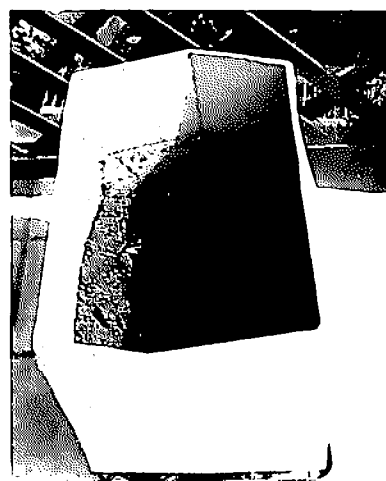
このマークの作者は、甲西高校1年生の高 智実さん。高さんは制作意図について次のように書いています。「菩提寺の活気あるまちづくりを目指し、人々が手をつないで、心を一つにしているところをマークにしました。上の緑の部分は緑豊かな菩



菩提寺まちづくり協議会

提寺を表し、同時に頭文字の'B'となっています。下の楕円形は手をつないでいるところを形にし、赤い色を使うことで人々のぬくもりを表現しています」。

今後このマークのもとで菩提寺まち協の活動が展開されることでしょう。



最近リサイクルに参加してみたいと言う問い合わせも出てきております。これからも、多くの方々に生ごみのリサイクルを取り組んでいただきたく思います。今後もモニターの募集を継続して実施する予定をしていますので、よろしく願いいたします。

「生ごみリサイクル」の手順は簡単です。

生ゴミを入れ、良くかき混ぜただけで出来ます。若干手間もかかりますが、良質の堆肥ができます。皆様と一緒に、地域循環型のエコ社会を作りましょう。

「身近なところから環境問題に取り組みましょう」。あなたも「生ごみリサイクル」にチャレンジしてみませんか！！

各委員会からの報告

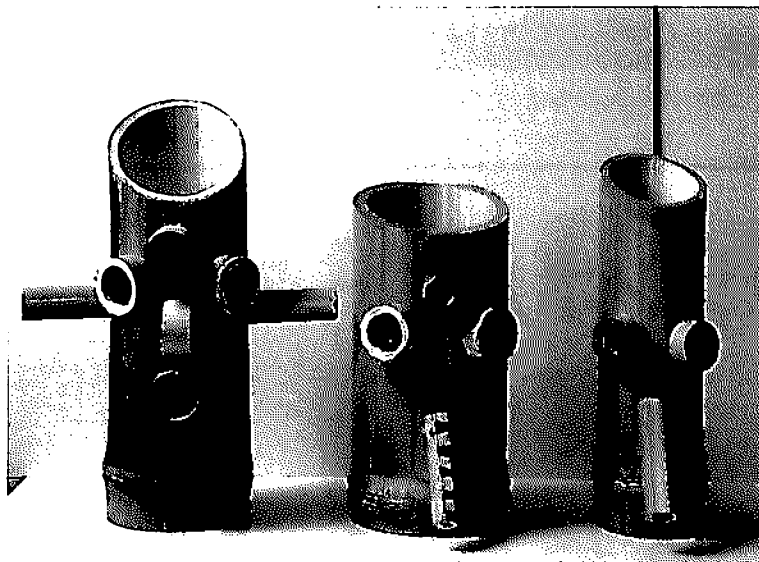
地域活性化委員会

地域活性化委員会では「ダン

ボール箱と腐葉土・米ぬか」を利用した生ごみのリサイクルに取り組んでいます。今期2回のモニター募集と、2回の情報交換会を実施いたしました。現在約80名の皆様が生ごみのリサイクルに取り組まれています。

まち協、菩提寺北小の

「親子ふれあい あすなる ウィンターカーニバル」に参加



ウィンターカーニバル ペン立て



ウィンターカーニバル 餅つき



ソフトボール大会 炊出し

人づくり委員会

あすなるは漢字で翌檜と書き、檜に似た木ですが、檜のように大きくなれずいつも「明日は檜になろう」と思っているということです。すなわち「未来ある子供たち」ということになります。

その「あすなる応援団」が昨年10月に発足して、初めての行事「あすなるウィンターカーニバル」が実施されました。

1月30日(土)10時から14時まで、菩提寺北小学校の体育館、1階のオープンスペース、中庭を利用して、昔遊びと餅つき体験が開かれました。

行事の内容は、昔遊びの手づくりたこ、手づくりけんだま、竹細工、こままわし、皿まわし、ゼニ太鼓体験、お手玉、羽子板そして4つの臼を使っての餅つき体験が行われ、参加者は嬉しいことに親子で220名、ボランティアが86名と、たのしい

思い出のできた一日でした。

人づくり委員会は竹細工コーナーを担当し、手づくりけんだまと竹のペン立て作りの手伝いを行いました。

ペン立て作りは形を決めず自由に作成させたところ、すばらしい発想でたのしい作品ができました。

安全環境委員会

安全環境委員会では、今期、ソフトボール大会での豚汁炊き出し、火災警報器の幹旋、神戸人と防災未来センター研修会、防犯講演会と多くの行事を行いました。

まず、ソフトボール大会では、用意した豚汁300食が完売しました。このデータを基に、防災時の炊き出しに必要なものを洗い出していくことができるようになったと感じています。

また、火災警報器に関しては、

来年の6月が取り付け義務化の期限となっております。今回申し込まれなかった方も、出来るだけ早めに、取り付けていただけますようお願いいたします。

神戸への研修会では、防災未来センター見学後に出席者の防災に関する意識が高まった、というアンケート結果が出ました。この結果を受けて、来期は、早い目に各自治会の役員の皆様にもそのような危機意識を持っていただこうと、5月30日に研修会を実施する予定にしております。各自治会の役員さまには、お忙しいとは思いますが、是非出席を予定しておいていただきますようお願いいたします。

最期に、防犯講演会も問題なく終了していることと思います。

今期一年間、皆様には、いろいろご協力いただきまして、本当にありがとうございました。



暮らし支え合い委員会

快適に「いつまでも、住み続けたいまち」を実現するには自然環境・医療施設・商業施設の充実等ありますが、高齢化が急速に進む善提寺地域にとって交通の利便性向上は重要な事と考えております。

日常生活にコミュニティバスが生活の足として地域の皆さんに愛され、利用し易い交通機関となる事を目指して、湖南省・滋賀バス・まちづくり協議会で検討を行っております。

先般自治会の皆様のご協力を頂き、コミュニティバスのアンケート調査を実施致しました。

特別便の「石部や中央への買い物バス」・「ゆらら行きバス」・「病院バス」への関心が高い事が伺えます。また、朝夕の通学・通勤時間帯での改善提案がありました。その詳細内容は回覧でご覧下さい。

ご要望の実現にはバスの増加、運転手の採用等新たな資金の投入が必要となり、利用者が大幅に増加する事が求められると思われれます。

私たち“暮らし支え合い委員会”は皆様のご意見を基に、より多くの方が利用して頂き「身近な生活の足」として親しまれるコミュニティバスとなるよう取り組んで参ります。

又、リタイアした人達や女性が地域活動への「一歩を踏み出す、きっかけづくり」を目的に日赤奉仕団や湖南省社会福祉協議会のみなさんとの情報や意見交換を継続して進めて参ります。

今後ともご支援頂きますようお願い申し上げます。

文化芸術委員会

今期1年を振り返ると6月にまちづくり協議会の全体活動として「歴史の小径」の整備のために階段ステップや排水路の確保、登り口の算、散在する切り枝等の清掃、埋もれていた石仏の整備を実施、以降毎月の草刈りや清掃を行い、当初の竹やぶ状態から大きく変身して「磨崖五輪塔」周辺は石部方面が眺められる広場となりました。

またこの活動は京都新聞でも取り上げられ、市の生涯学習情報誌「ルネッサンス」でも紹介されたこともあって、地区外から訪れる方も見受けられました。

11月の「善提寺まちづくりセンターまつり」では善提寺の地域学習の成果の一端として善提寺小学校6年生の原画による冊子「善提寺史跡散策ガイド」と善提寺北小6年生の原画による看板「善提寺史跡散策マップ」の原

画展を行い、子供同士はもとより親子3代で見学に来られる姿も何組か見受けられました。

同日にはガイド配布並びに看板のお披露目を行い、初の試みとして観光ボランティアのご協力による「史跡ツアー」を行い、西応寺様のご好意により善提寺の「古地図」を拝見する事も出来ました。

ご好評をいただきました冊子を増刷するに当たり「善提寺史跡散策マップ」を取り込み、善提寺の小学生の地域学習の成果としての「善提寺史跡散策ガイド」にリニューアルしました。

この様な活動を通じて、地元「善提寺」の良さの一端を改めて紹介出来た1年だったのでは、と考えています。これらの活動にご協力をいただきました善提禅寺の安部住職様、並びに皆様紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

菅北小6年生 「歴史の小径」を行く②



珍しい閻魔石像、924年に出来たって...

和田神社と谷城には、いのししの石が1つありました。鬼みtainな石が三つ置いてありました。少しこわかったです。いのししは、かわいかったです。石地蔵菩薩立像三体は、みんなそれぞれに違うものを持っていました。石の形も違いました。おじぞうさんのまわりには、竹みtainなのがついて、その中には、草みtainのが入っていました。「なんでなのかなあ」と思いました。閻魔石造は、とてもめずらしいということです。924年の年代にできたそうです。「とても前にできたんだなあ」と思いました。後ろから見たら割れていました。割った人は、手や足が動かなかったそうです。たぶんばちが当たったんだと思います。多宝塔は、下らへんにおじぞうさんが書いてある石がありました。いろいろなおじぞうさんがいました。とても高くてすごかったです。菩提禅寺は、寺がやかれた時に仏像がやけどしたけどなくならなかった。すごいと思いました。(女子児童)



住職の安部さん 絵：女子児童

僕も未来に残せるものを作りたい

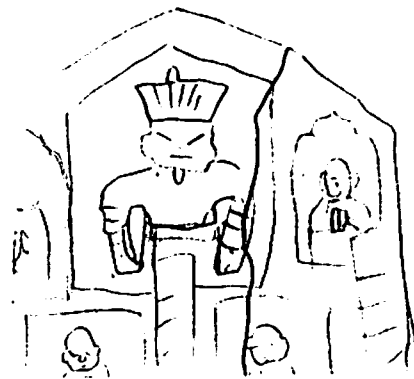
フィールドワークは、昔の事がよくわかって楽しかったです。だから、長い道のりもすごく短く感じました。道しるべなどは、誰が作ったんだろう？そしてだれが指示したんだろう？禅定安居岩はよく良弁さんがあんな高い所にずっといれたんだろうと思いました。僕も昔の人みたいにずっと未来に残せるものをつくりたいです。(男子児童)

昔の旅のしんどさがちょっとわかる

今日は、安部さんが教えて下さって「おもしろかったな」と思いました。一番印象に残っているのは座禅岩の上に乗ったことです。思ったより上から下を見下ろすとだいぶ高く感じました。長細い石が5本かけてあってすきまもあいていたような橋を昔の旅人はふつうに通っていたなんて昔の旅のしんどさがちょっとわかるような気がしました。(男子児童)

<閻魔石造>

な - ひ -



閻魔石像 絵：男子児童

広報の目標は、ありのままを、ありのままに分りやすく伝えることであり、しかも興味深く読んで貰えるような誌面の内容・編集です。

このような作業を通して見えてきたものがあります。

それは各委員会の事業展開の裏で育ち始めた人と人のつながりのように感じられます。

今世界は急速なグローバル化に向かう中で、失われつつある人のつながり、それは取りも直さずまち協が取り戻そうとしているものですね。

言い換えれば、失敗は許されない時間をかけた社会(地域)のデフラグなのかも？(Y.K)

編集後記

まち協ブログもご覧下さい。
<http://machikyo.shiga-saku.net/>

